

迎春

誇りとするまちを私たちの手によって



播磨町長
佐伯 忠良

新年あけましておめでとうございます。
皆さま方には、良き新年をお迎えになられたことと、心からお喜び申し上げます。

正月元旦、いくら世情が厳しくても、この日ぐらいいは良き夢を思い描きたいものです。

変化の激しい時代ですが、近年特筆すべきことと言えば市町合併でしょうか。国への依存体質からの脱却を図り、地方分権社会に対応する最良の手段が合併かどうかは別として、自分たちのまちは自分たちの手によって行っていく時代に入りつつあります。国による束縛から解放されるということは、まちの経営にその責任を持たざるを得ないこととなります。今後は、新しい感覚を持ってまちをつくっていかねばならないことを意味しています。

昨春秋に、県立考古博物館（仮称）の起工式がありました。これが来年秋にオープンします。これにより、内外の多くの人たちとの交流が始まります。これからの新しい文化の創造に、大きな役割を果たしていくものと期待をしています。私たちが誇れるまちを皆さまと共につくっていききたいと思っています。
皆さまにとって良き年でありますよう祈念して、年頭のごあいさつとさせていただきます。

心の豊かさと喜びを実感できるまちに



播磨町議会議長
山下 喜世治

新年明けましておめでとうございます。平成18年の年頭にあたり、播磨町議会議長を代表して謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆さま方には、健康で希望に満ちた初春を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

新しい年は、まさに地方分権と行政改革と財政危機のうねりの中で始まりました。国の内外ともに大きな変革の時期に遭遇しており、町行政におきましても少子高齢化、情報化の進展など、いまだかつて経験したことのない新たな事態に日々直面し、まさに行政の真価が問われている時代にあるといっても過言ではありません。こうした厳しい環境を乗り越え、心の豊かさや日々の暮らしに喜びを実感できるまちづくりを進めていくためには、住民の皆さまと協働しながら自治力をさらに高めなければなりません。議会としても複雑、多様化する政策に的確な判断を示し、住民福祉の向上に最善の努力をいたします。今後とも皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、播磨町の限らない繁栄と、本年が皆さま方にとって良き年でありますことを祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

あけまして
おめでと
う
ござい
ます

議長
山下 喜世治

副議長
藤田 博

議員

- 浅原利一
- 小西茂行
- 松本かをり
- 河南博
- 永谷修
- 塩沢岩光
- 田中久子
- 中西美保子
- 杉原延享
- 松本正
- 毛利豊
- 清水ひろ子
- 宮尾尚子
- 古川美智子
- 浅原博文

(議席順)

公職選挙法により、政治家は、年賀状などのあいさつ状を出すことが禁じられています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

